

知恵の樹

growing in OZUKA

広島市立大学
附属図書館報

第55号 2012年10月

これだけは読みたい!!先生の書棚の11冊	_____	1~3	いちだい知のトライアスロン	_____	5
2012 後篇			学生図書館サポーター日誌		
レポート・論文作成のための文献の探し方②	_____	4~5	わたしの一冊 / LOOK HERE!	_____	6

これだけは読みたい!!

先生の書棚の 11冊 2012

後篇

いよいよ『読書の秋』の到来!! 秋の夜長は、ゆったり落ち着いて本を読んでみませんか。そこで前号から引き続き、先生方に「学生の皆さんに是非読んでもらいたい」という図書を紹介していただきました。今回はその特集の後篇です。本号では副学長、各センター長がおススメする図書をご紹介します。



「生き方」を模索している君へ

附属図書館長 赤星晋作教授

『生きる意味』

上田紀行著 岩波書店 2005年 【916 7ジ】

学生に勧めたい本は幾つかあるが、大学に入学してこれまでの生き方、これからの生き方を考える際に参考にしてほしい著書である。著者は、東京工業大学の教員で「ベスト・ティーチャー」に選ばれたこともあるようだが、若い頃の自分自身の生きることへの苦悩がこのような本を書かせたのであろう。

今の時代を「かけがえのなさの喪失」ととらえ、「透明な存在」「自分で自分が見えない」「どこにでもいそうな私」等の言葉で説明する。その原因を「数値化と効率化の果て」に求める。そして、このような「数字信仰」から「人生の質」への転換を訴え、「苦悩」を通して「内的成長」していくことの大切さを述べる。内的成長のきっかけは、「ワクワクすること」「生きている!という感覚」「生命の輝き」をつかむことである。苦悩は、このような「生きる意味」を創造する大きなチャンスなのである、と言う。

一人ひとりの「生きる意味」に正解はない。筆者の主張に肯定的であろうが否定的であろうが、大学生となり各人が、これからどのようなものの見方、考え方、生き方をしていくのか、真剣に考えてほしい。

障害者とボランティア 関係の逆転を通して自分を知る

副学長 青木信之教授



『こんな夜更けにバナナかよ : 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』

渡辺一史著 北海道新聞社 2003年 【369.27ワ】

『こんな夜更けにバナナかよ -筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち-』は、障害者施設ではなく自立生活を選んだ進行性筋ジストロフィーの鹿野靖明と彼を支えるボランティア達を描いたノンフィクションである。すべての筋肉が衰えるため、24時間体制で介護が必要な鹿野と支援するボランティア達との交流が、「介助ノート」を中心に描かれる。著者の渡辺一史は、この本で大宅壮一ノンフィクション賞、講談社ノンフィクション賞を受賞している。

本書では、ボランティア達が鹿野の生きたいという執念から学ぶエピソードとともに、皆が口をそろえて言う鹿野の「ワガママ」から、自身の複雑な心の振幅に向き合うこととなるエピソードが多く語られる。

ある深夜、病室の簡易ベッドで寝ていたボランティアの一人国吉は、鹿野にバナナが食べたいと起こされる。「こんな真夜中にかよ」と内心腹を立てながら時間をかけて1本食べさせ、「さあ寝かせてくれ」というときに「国ちゃん、もう1本」と鹿野。このとき、驚きとともに国吉の怒りは急速に冷え、鹿野の「ワガママ」を受け入れるようになる。

鹿野の介護を通じて、障害者と介助者（健常者）の関係は常に揺さぶられる。ボランティア達は鹿野から痰の吸引、体位交換など様々なことを教わるなど、「できる者」と「できない者」が逆転することに始まり、「与える者」と「与えられる者」、「受け入れる者」と「受け入れられる者」が入れ替わる体験をしていく。介助者は障害者に気兼ねし、障害者は介助者に遠慮し、といううわべの関係ではなく、本書では自我の衝突を通じて自分というものを問い直す過程、介護を体験した者であれば、おそらく誰もが多少なりとも経験する過程が臨場感をもって描かれている。（敬称略）



これから人生と学問に向き合う若い人へ

副学長 若林真一教授

『生きること学ぶこと』

広中平祐著 集英社 2011年 【289.1ヒロ】

1970年に39歳で数学界のノーベル賞と呼ばれるフィールズ賞を受賞し、1975年には文化勲章を受章した世界的数学者が、若い人を念頭に自らの半生を振り返りながら熱く語った人生論、学問論、それが本書である。著者はまず「人はなぜ学ばなければならないか」と問いかけ、それは「知恵」を身に付けるためだ、と答える。そして、知恵には広さ、深さ、強さが必要だ、と説く。さらに自らの数学研究を例に、何かを創造する喜びとチャレンジする精神の大切さを語る。そして、人生を生き抜く上において未知の自分を探求することの大切さを指摘する。

著者の語り口は平易で分かりやすく、なにより若い人に自分の経験と考えを伝えたいという熱い思いが感じられる。人生、学問あるいは創造について考えてみたい若い人、特に新入生に強くお勧めしたい本である。一流数学者の自伝としても面白く読めるし、小澤征爾と福岡伸一による解説も一読の価値がある。

文章の内容だけでなく構造も考えてみよう！

語学センター長 横山知幸教授

『名探偵の掟』

東野圭吾著 講談社 1999年 【913.6ヒガ】



今回わたしが推薦する本は、東野圭吾『名探偵の掟』（講談社文庫、1999）である。かの東野圭吾氏の作品であり、面白くないはずがない。だがこれは、普通の推理小説ではない。普段はあまり意識することのない「推理小説の数々のお約束ごと」を、はっきりと読者の意識にのぼらせて、そのお約束ごとの構造自体を、冷静な目で楽しんでしまおうという、かなり知的な遊びのように思われる。例えば「密室殺人」、例えば「二時間ドラマ」。ねえ、面白そうでしょう？

わたしがこの本を推薦するのは、文章の構造や仕組みにも関心を持って欲しいからだ。普通に文章を読むときには、言葉それ自体よりは内容に目を向けるだろう。それが自然な読み方だ。しかし、言葉それ自体や、文章の構造に目を向けるのも、またとてもとても楽しいのですよ。そんな体験を一度はして欲しい。この本は十分にその手助けをしてくれると思う。



19世紀に世界をつなぐネットワーク？！

情報処理センター長 前田香織教授

『ヴィクトリア朝時代のインターネット』

トム・スタンデー著 NTT 出版 2011 年 【694.23 ス】

今やインターネットは電気や水道と同じように、家や学校、職場に整備されていて当然という時代になってきました。しかし、インターネットの歴史はほんの30年位です。しかも、インターネットが現れた当初には「インターネットは必要なのか？」という懐疑的な考えをもつ人々との衝突が多々ありました。本書は19世紀にさかのぼり「遠く離れた人々の間でメッセージを伝えたい」という情熱をもった人々がどのように世界をつなぐネットワークを作ってきたかが記されたものです。インターネットの黎明期よりもずっと厳しい時代に、「電信」の技術を広めるための技術的課題や社会的課題をどう克服してきたかを本書で読むと、インターネットの普及に関わった一人として共感すべき点が多々あります。

本書が新しい通信技術が社会に根付いていく過程や電信とインターネットの発展の類似性を考えるきっかけになればと思います。

「平家納経と厳島の宝物」について

芸術資料館長 若山裕昭教授

『平家納経と厳島の宝物：厳島神社世界遺産登録記念展』

広島県立美術館編 広島県立美術館 1997 年 【709.1 ヒロ】



今年度の「知のトライアスロン」関連イベントとして、芸術資料館が推奨する展覧会は NHK 大河ドラマ 50 年特別展「平清盛」です。注目される展示品は国宝「平家納経」です。

「平家納経」は33巻の経文の書写ですが、各巻ごとに趣向を凝らし、装飾の限りを尽くした華麗なものです。平安王朝の雅な文化が見事に表現されています。

今回の推薦図書「平家納経と厳島の宝物」は、1997年に開催された「厳島神社世界遺産登録記念展」の解説図録ですが、市立大学図書館でも閲覧できます。この図録の特色として「平家納経」全33巻の表紙と見返し部分がカラー写真で紹介されていることです。

さらに参考資料として、図書館のビデオをお勧めします。学研「国宝」16 厳島神社（放映時間 30 分）です。「平家納経」の制作技法をわかりやすく説明しています。こちらも「平清盛」展の鑑賞の手引きとしては良いと思います。



いっしょに惑星を探しませんか？

社会連携センター長 井上智生教授

『冥王星を殺したのは私です』

マイク・ブラウン著 飛鳥新社 2012 年 【445.9 ブラ】

こどものころアニメで見た「第11番惑星」。そんな新惑星発見のニュースを聞けるとよいなあと思っていました。しかし最近、太陽系の惑星の数が減ってしまったのだから驚きです。

この本には、冥王星が準惑星に降格（？）されるまでのいきさつが書かれています。その背景にあるのは、惑星探しに情熱を注ぐ天文学者である著者とそれに関わる人々の思いです。家族や友人、仲間たちや研究室の学生が彼を支え、冥王星の外側に次々と新たな星を見つけていきます。その一方で研究成果を争う人々もいます。自然科学のような真理や事実を追求する学問分野であっても、多くの人の思いが重なって形になるのだと改めて感じました。私も自分にとっての惑星を探し続けたいと思います。みなさんといっしょに。

もちろんこの本には惑星を中心とする天体の話もわかりやすくおもしろく書かれています。夜空に「さまよえる星」を見つけるのも楽しいですよ。

先生のおススメ本は、図書館3階トライアスロンコーナーにあります。【 】内は請求記号です。

「国立国会図書館サーチ」登場!!

国立国会図書館の Web サイトで、新しい検索サービスが始まりました。併せて、これまで図書・論文検索ツールとして紹介していた「NDL-OPAC」のデザインも一部リニューアルされています。



国立国会図書館サーチ (NDL Search)とは？

国立国会図書館が所蔵する資料の全てを探ることができるほか、全国の公共図書館(都道府県立図書館・政令指定都市の市立図書館)、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、各種デジタルコンテンツ等を情報の形態を問わず統合的に検索できるサービスです。

ここにキーワードを入力



① 検索結果の絞り込み
資料種別
本 (2907件)
記事・論文 (5600件)
新聞 (2件)
児童書 (78件)

② 著者名キーワード
著者名キーワード

③ 連想キーワード
連想キーワード

① 「資料種別(本、記事、論文等)」や「データベース(雑誌記事索引、CiNii等)」、「所蔵館(公共図書館のみ)」で検索結果の絞り込みをすることができます。

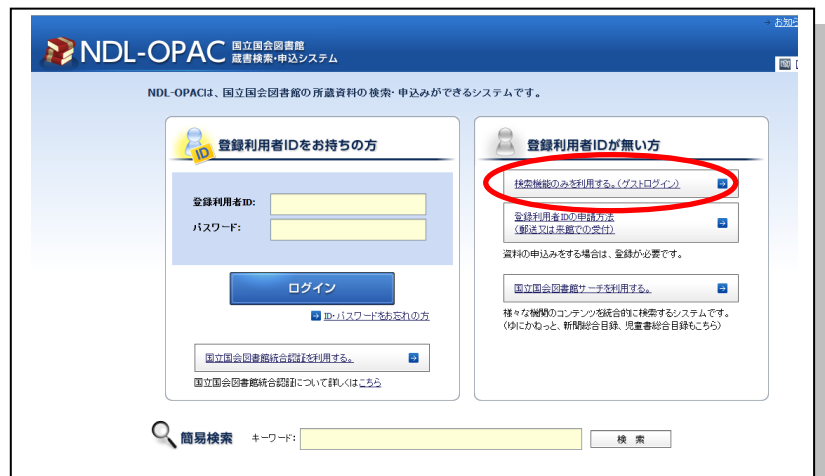
② 「著者名キーワード」や「連想キーワード」は、更に検索の幅を広げるために使ってみると良いでしょう。



NDL-OPAC の TOP 画面・ 検索画面が変わりました

【TOP 画面】

図書の検索や雑誌記事の検索のみの場合は、ログインは必要ありません。「検索機能のみを利用する。(ゲストログイン)」をクリックして進みます。



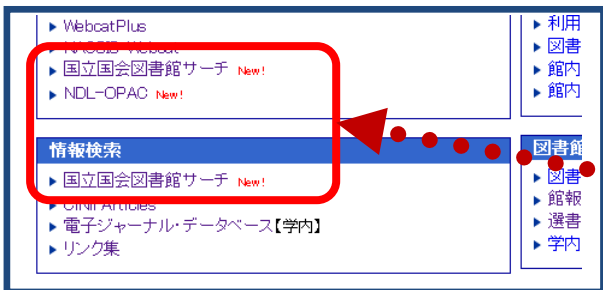


NDL-OPAC(書誌検索画面)

国立国会図書館が所蔵する本の検索ができます。

NDL-OPAC 雑誌記事索引

国立国会図書館が所蔵する雑誌の記事検索ができます。



NDL-OPAC、
国立国会図書館サーチの利用は、
図書館 Web サイトから!!

<http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp>



いちだい知のトライアスロン 学生図書館サポーター日誌

学生図書館サポーターが活動を始めて、はや4か月が経ちました。
展示を行ったりブックハンティングに参加するなど、様々な活動を行っています。
そこで今回は、それぞれの個性が輝く“展示”の様子をお伝えします！

7月からの展示は、文学が大好きな国際学部の中広さんを中心に作業を進めていきました。
テーマは『グリム童話初版 200周年特集』。

皆さんに読んでもらいたいページを開いて図書を並べたり、ボードに自分の思いを熱く語った文章を貼ったりと学生目線の個性が十二分に表れた、とても素敵な展示になりました。



▲展示作業中



▲展示完成！

NEXT ▶ 10月からの展示は…

芸術学部の時任さんが担当します。
図書館 3F 入口を入ってすぐ右側の展示コーナーでは、6月に開催した『ブックハンティング』で購入した図書を展示し、エレベーター前展示コーナーでは『ネガティブ』をテーマにちょっと暗い話の図書をまとめて展示しています。

後期も学生図書館サポーターを募集します。

図書館や「いちだい知のトライアスロン」のシステムに興味のある方はぜひ一緒に活動しましょう！



わたしの一冊

芸術学部 藁谷 実 教授

『藝術の慰め』

福永武彦著 講談社 1970年

厚い布製の表紙をめくると、スタールのオンフルールの空、ルソーのジャドヴィガの夢、ピカソの盲目のギター弾き、軽業師の家など昭和40年代らしいややくすんだ印象のカラー図版が続く。私は大学生の頃から福永の小説が好きで、死の島、草の花など次々と読んだ。2～3年前のこと、この本の存在を知り、是非読みたいと思った。絶版となっているが、インターネットで簡単に手に入れることが出来た。

本書は美術の評論や解説書とはひと味違い、福永の言う「心理的順序に従って」書かれ、プロローグから芸術の本質に踏み込んでいる。福永は確かな芸術観と小説家らしい深い洞察に基づいて絵を読み、画家たちの内なる声を聞く。1人目の画家は、ニコラ・ド・スタール。経歴や作品の主題について論ずるうちに絵のモチーフとなった地、オンフルールからボードレールを連想し、散文詩へと展開する。そして、画家の自殺。直前まで明るい絵を描いていた画家の内面は、もはやわからない。このように22人の画家についてのエッセイが続く。芸術が鑑賞者の魂に癒しを与えると説きながらも世間の無理解や自己との過酷な戦いがある芸術家の人生を浮き彫りにしている。

日頃は創作の方に気持ちが傾いており、鑑賞者の立場であまり考えることの無い私だが、芸術の役割について改めて考えさせられる本である。



この本は図書館3階にあります。ご利用ください。【図書館3階 701フク】

※【 】内は配架場所と請求記号です。

LOOK HERE!

● いちだい知のトライアスロン 出張講座

★ 広島市映像文化ライブラリー出張講座

日時：2012年12月14日（金） 午後5時30分～

内容：国際学部佐藤深雪教授による講演と映画「君の名は(第二部)」の上映です。

※事前に申込みが必要です。図書館カウンターでお申し込みください。

★ ひろしま美術館出張講座

日時：2013年1月26日（土） 午後2時～

内容：芸術学部及川久男教授と渡辺純子ひろしま美術館主任学芸員との対談と、渡辺学芸員の「ルドゥーテのバラ」展の見所紹介です。

※事前に申込みが必要です。図書館カウンターでお申し込みください。

申し込み方法・詳細については、いちだい知のトライアスロンWebサイト <http://triathlon.hiroshima-cu.ac.jp> でご確認ください。

● 返却忘れはありませんか？

夏休みの特別貸出期間に借りた図書の返却期限は 10月11日(木) です。

返却期限を過ぎた資料が1冊でもあると、新たな資料の貸出ができなくなります。

必要なときに「借りられない！」ということのないよう、今一度確認しましょう。

いちだい 市大コーナー新着図書

『客家の創生と再創生：歴史と空間からの総合的再検討』 瀬川昌久、飯島典子編

編集後記

今回は前号に引き続き、先生方がオススメする本の紹介をしました。大学祭など色々な行事も多い秋ですが、「読書の秋」も是非お忘れなく…

ところで、現在図書館では「本の補修・修理」と題し修理に関する資料や実際に使用している道具を展示しています。「知恵の樹」でも「図書館のウラガワ」で、「本の補修・修理」の特集をする予定です。お楽しみに!!

2012年10月15日発行
広島市立大学附属図書館

広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

TEL : (082) 830-1508

FAX : (082) 830-1659

E-mail tosho@lib.hiroshima-cu.ac.jp

<http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp>